

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3090100482		
法人名	セントケア和歌山株式会社		
事業所名(ユニット名)	セントケアホーム中之島(1階)		
所在地	和歌山県和歌山市中之島380-10		
自己評価作成日	平成26年11月18日	評価結果市町村受理日	平成27年12月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.gokensaku.jp/">http://www.kai.gokensaku.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会		
所在地	和歌山県和歌山市手平二丁目1-2		
訪問調査日	平成26年12月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

熊谷方式三期分類(アルツハイマー病にマッチ)を取り入れ、それぞれの種類、BPSDの症状に合わせた具体的なケア手法の確立を目指し、統一されたケアの提供をすることでBPSDの改善を目指しています。ご家族や友人の面会も多く、馴染みの方々の交友関係が継続して生活して頂ける環境となっています。キッチン専門スタッフを配置することで、お客様に手厚いケアが出来るように、安心して寄り添うケアが出来るように努めています。また、食に対してもこだわりを持ち、農家と提携しているお米(セントケア米)を使用、栄養管理されたメニューを提供し、健康管理に日々努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所のすべての職員は利用者はおお客様であると考え、「お客様第一主義」をケアサービスの基本に据えて、寄り添う介護を実践している。利用者一人ひとりが自己のペースを守りながら暮らす事ができるように生活の場を整えての支援である。健康管理や医療の面でも、かかりつけ医、訪問看護師との密な連携のもと、適切に実施されており、利用者は安心して日々を過ごす事ができる。又、地域社会との交流については、運営推進会議の更なる充実を図り、地域のニーズを把握する事で、事業所のできる活動や役割を積極的に担いながら、地域とのつながりの一層の強化が図れるよう取り組みを進めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日々の朝礼の際、経営方針書を読合せ、理念・方針等を共有しており、地域の一員として地域社会に貢献し、理念のもと日々自覚し支援しています。	法人の統一理念に加えて、事業所独自の目標を年度毎に設定し、日々の読み合わせにより周知・共有を図っており、管理者と職員は理念及び目標の土台となっている「お客様第一主義」に徹して利用者の生活を支えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の方々の繋がりを大切にし、地域の清掃活動及び地域商店の利用もし、地域との関わりを大切にしている、	地域の清掃活動への参加の他、環境整備の一環として事業所周辺の清掃を実施しており、その際には自治会役員の協力を得ている。又惣菜や衣類の購入に地域の商店やスーパーを利用する等地域とのつながりを重視している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の際、お客様の状況、ケア内容を報告し理解を深めて頂き、外出支援を行い地域への参加を深めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二か月に一度、運営推進会議を行い普段の取り組みについて報告をし、色々な意見をケアに反映出来るよう取組んでいる。	2ヶ月に1回開催する運営推進会議には、利用者家族及び包括支援センター職員が出席し、事業所のサービス、評価への取り組み等の報告や話し合いを行い、出された意見をケア実践に反映するよう努めている。	運営推進会議は事業所と地域との交流促進の貴重な機会である。自治会役員や地域住民の参加への積極的な働きかけや、部分的ではあっても、利用者が参加できる工夫を行い、実現につなげる事を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	包括支援センター等、常に連絡し、運営推進会議にも参加して頂き、情報の共有、協力して頂くように努めている。	市の包括支援センター担当者とは、運営推進会議への参加を含め、日頃から連絡を密に取り、事業所のサービス内容や取り組み状況等を積極的に伝え、助言を得る等双方向の協力関係を築くように努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	理念にもある「お客様第一主義」を周知徹底し、身体拘束をしないよう寄り添うケアを徹底し実践している。	事業所の年間スケジュールの中に拘束に関する研修を組み入れると共に、外部研修も受講しており、代表者及びすべての職員は身体拘束となる具体的な行為を正しく理解している。見逃しやすいスピーチロックについても、自己点検及び相互確認を行いながら、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	熟練研修等で内部研修を実践し、全スタッフに虐待防止について学び、互いにケアが虐待に繋がっていないか確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている方には、後見人の方に随時報告を行い、スタッフに制度について理解をしてもらうよう説明している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約まで、ご本人・ご家族への面接にて説明し、又契約時での説明も含めて解らない点のご理解して頂けるよう説明をおこなっています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	お客様の状況を日々把握し、面会時や運営推進会議等でご意見を聞き、又連絡を密に取り日々のケアに反映させている。	日々の生活の中で、又面会時や電話での連絡の際に、利用者や家族等の意見・要望を聞き取っている。また、運営推進会議は家族等が外部者に意見等を表せる機会となっており、出された意見・要望は職員間で検討しながら運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	熟練研修やフロアミーティングでスタッフの意見をケア及び処遇等に反映させている。	職員はユニット単位の会議や全体会議以外にも随時管理者に意見・提案を出す事ができる。勤務への希望は予め申し出る事ができ、必要な物品の購入等についても、管理者又は上申を受けた代表者の決裁により実現をみている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフ個々に面談し、話し合える機会を設け、希望される勤務状況等、やりがいを感じる職場環境の構築に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフ個々の力量を把握し、その人に対して必要なアドバイスを行っている。新人スタッフにはチェックシートを配布し、チェックをしながら研修・指導を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修の機会においての情報交換や、営業時などに情報交換をおこないネットワークづくりを構築している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	環境の変化に伴う不安感を軽減するため、ご入居前に面談を頻回に実施したり、安心して頂く為施設内見学や体験をして頂けるようお伝えしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご入居に至るまでの面談をし、ご家族の不安を回避できるよう、又安心して利用して頂く面談し関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族戸の面談の中で、支援計画を把握し、必要なサービスを検討し対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「お客様第一主義」「寄り添うケア」を徹底し、ご本人のペースで安心して生活ができるよう支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との連絡を密に行い、人間関係を深め、ご家族とご本人がより良い関係でいられるように支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時間は基本的に夜間以外は自由にしており、馴染みの方々との交友関係が継続できるよう努めている。又外出や外泊や可能な限りしていただきます。	家族との面会はもちろんのこと、知人や友人の訪問を受けたり、電話で話したりと、馴染みの人との交流を続けている。又行きつけの美容院や墓参り等に家族又は職員同伴で出かけており、馴染みの場との関係継続の支援に努めている。今年も年賀状を作成する予定である。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お客様同士、関係を深めていくよう、スタッフが懸け橋となり、コミュニケーションはじめ会話など行っています。互いに励ますような場面も日常見受けられます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後であってもご家族からの相談に応じたり、ケアマネージャーと情報交換を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	今までの生活歴や思いを把握し、その人らしい生活ができるよう、又要望にこたえられるよう支援している。	利用者一人ひとりの生活歴等の情報を参考にしながら、日々の生活の中での発言や行動から思いや意向を汲み取り、職員間で共有している。困難な場合もあるが、本人の視点に立ったアプローチと話し合いが把握を可能としている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご家族様にメモリーブックを書いて頂いたり、ケアマネージャーとも連絡を密にし、生活歴を把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々お客様の状況把握に努め、医療とも連携し健康状態に配慮し、個々の身体機能維持に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	主治医の往診や訪問看護と連携し、お客様本位のケアが実践できるよう介護計画を作成し実施している。	面会時等に本人・家族等の意見や要望を聞き取り、かかりつけ医・看護師等関係者との話し合いや職員間での検討を経て、それぞれの意見やアイデアを活かした介護計画を作成している。また、モニタリングによる評価を通してより現状に即した介護計画としている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活状況を日常生活記録に記録し、小さな変化を共有できるようにし、介護計画の見直しの際に活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況の変化に伴い、常に対応できるようにしており、必要に応じ通院の介助や医療関係の紹介を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議等、地域の情報を把握し、ご本人に合った資源を活用出来るように支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族の希望に添い、主治医を決めて頂き、定期的に情報交換を行い、必要に応じて受診等の支援を行っています。	本人及び家族等の希望により、主として事業所と提携するかかりつけ医の往診を受けている。また、職員又は家族等が同伴しての医療機関受診もある。医師への情報提供は基本的に文書で行い、利用者が適切な医療を受けられるように支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一回の訪問看護の訪問があり、お客様の状況を主治医に報告・指示を仰いでいます。又、24時間の連絡体制を取り支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は定期的な訪問を市、状態の把握に努めています。又、担当医や看護師より状態の説明を伺い、退院の支援に繋げています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご入居の際、看取りに関しての考えをお聞きしており、ターミナルケア時には、ご家族やご本人の意向に基づき、医療との連携を図りながら支援を実施しています。	事業所としての指針を作成し、契約時に説明すると共に、段階毎に本人及び家族等の意向を確認し、関係者と方針を共有しながら支援しているが、入院又は複合施設利用での、重度化や終末期への対応となっており、看取り実施は現時点ではない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な訓練や研修を行い、朝礼時には防災呼称・CPR呼称を行い、全スタッフが対応出来るようにしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	熟練研修等で、災害時の対応について確認し、避難経路の確認を定期的に行っています。	年3回の防災・避難訓練をマニュアルに則して実施し、その内の1回には消防署の立ち合いがある。訓練は昼間及び夜間を想定し、利用者と職員が一緒に行っている。又事業所内に水・食料・毛布・コンロ等を備蓄し、災害に備えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	公共の場などでは、お客様のお話しはしない事を徹底しており、個々の人格やプライバシーに注意し、常に対応に気を付けています。	利用者一人ひとりの誇りの尊重、プライバシーの確保に努め、トイレへの誘導の際等には、目立たずさりげない言葉かけに配慮している。又利用者の情報については、施設できる場所に保管する等責任ある取扱いと管理を徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自発的な行動や要望には直ぐに対応出来るよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お客様が選択できるよう意識し、個々の生活ペースに合わせて、ゆとりを持ち支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節の物が着れるよう衣替えを行ったり、女性は日々整髪、男性は髭剃りをしています。希望者には訪問美容での支援を行っています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	副際の盛り付けをお客様に手伝って頂き、又、テーブル拭きやお盆の片付けとスタッフと共に手伝って頂いています。	利用者の食べやすさやカロリーに配慮した法人作成のメニューに基づいた、キッチン専門スタッフによる食事づくりであるが、副食物の盛り付け、テーブル拭き、後片付け等は、利用者一人ひとりが持つ力に応じて職員と一緒にしている。食レクと銘打った、利用者が希望するメニューを実施する機会を定期的に設けており、利用者の楽しみの一つとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状況に合わせて、形態や量を調整しています。月2回食レクを実施し、好きなものを食べて頂いています。栄養がバランス良く摂取できるように支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い、ご自身で出来る方は声かけし、出来ない方は介助を行っています。夕食後は義歯洗浄し、必要に応じて訪問歯科や歯科衛生士による口腔ケアも行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を作成し、排泄パターンを把握し、トイレでの排泄が出来るよう定期的なトイレ誘導を行っています。	排泄チェック表を参考にし、利用者一人ひとりのパターンに合わせての対応である。リハビリパンツやパッドを使用している利用者についても、根拠を明確にし、常に見直しを行いながら、トイレでの排泄、更には排泄の自立が達成できるよう、段階を踏んで支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取の把握をし、便秘にならない様、便薬のコントロールにも注意し支援しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個浴によりスタッフとゆっくりと話をしながら週3回の入浴を楽しんで頂けるよう支援しています。	利用者の生活習慣や希望に合わせての実施であり、職員との会話や入浴剤の使用等でくつろいだ気分での入浴につながっている。入浴を拒み勝ちな利用者については、時間をずらしたり、職員が交代で声をかける等の工夫を試みているが無理強いはず、本人の気分の変化を待つという姿勢である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠時間は個々に違う為、今までの生活習慣を大切に、安心して休んで頂けるよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎回、処方時に変更や注意事項がないかチェックし、全スタッフが把握できるようにしています。又、薬によっての状態変化がないか観察しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーションの時間を設け、好きな事を楽しんで頂けるよう、出来る事を引出し、やりがいを感じていただいているよう支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人と相談し、予定を立てて散歩や外出が出来るよう支援しています。又、月行事の企画をし、ドライブ等の支援も行っています。	家族等との散歩や職員との買い物等、利用者の希望にそって日常的に外出支援を行っている。又普段は行けないような場所へも、行事に組み入れる事で、花見や外食等にも出かけている。家族同伴で温泉での入湯を楽しむ事もある。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族よりおこずかいをお預かりし、買い物や外食の際には出来るだけご本人でお支払いが枝きるように支援しています。毎月ご家族に出納帳のコピーと領収証を送付し、管理を行っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	お客様の希望される時は、電話ができるよう支援しています。ご家族にもご本人からのお電話する事をお伝えしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ブラウンを基調とし、ゆったりとできるような環境整備を行っています。テーブルや洗面台には生花を飾り心を癒して頂け入る様努めています。また、室温・湿度調整にも気を付けています。	共用空間の五感刺激には、全職員が注意を払い、環境整備に努めている。ホールにはソファやテーブルが使いやすく配置され、利用者はカレンダーや草花で季節の移ろいを感じながら、ゆったりと思いいいに過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事の席はほぼ決まっていますが、食事以外はご自由に過ごして頂いており、ソファやテーブル配置を工夫し、くつろげる空間づくりに心掛けています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にご相談し、ご自宅で使われていた家具や思い出の品、アルバム等持参して頂き、居心地よく生活して頂けるよう支援しています。	居室には、使い慣れた馴染みの整理ダンスや仏壇等が置かれ、その人らしく居心地の良い部屋となっており、家族や知人と談笑する光景がみられる。又家具等には対震処置が施され、入口の引き戸は内側から施錠できる等防災やプライバシー保護に配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々に合わせた「できること」「できないこと」の支援を把握し、安全かつ出来るだけ自立できた生活が出来るように工夫しています。		